

# 前回（第2回）懇談会の指摘事項の説明

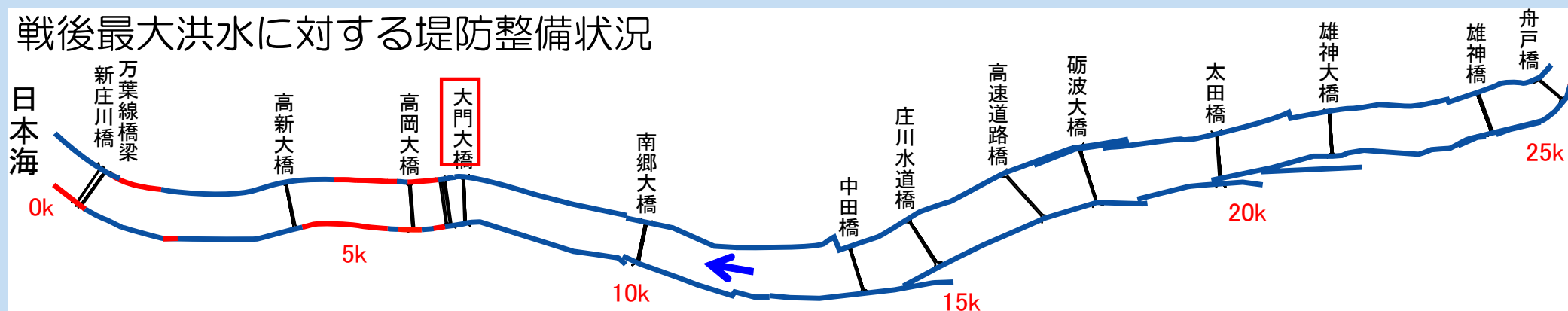
# 前回（第2回）懇談会の指摘事項について

	主なご意見・ご質問	対応案	資料
①	計画対象区間について、区間だけではなく氾濫区域または影響のある区域や庄川の水の恩恵といった観点も加えた方がよいのではないかと？	流域や洪水の氾濫域、庄川の水の恩恵が及ぶ地域を対象エリアとして課題を抽出し、国土交通大臣管理区間を河川整備実施区間とさせて頂きたい。	-
②	庄川の源流は、山中山の峠の上流にある湿原と聞いたことがある。併記するなど配慮できると良い。	慣用的に源流としている既存文献があり、烏帽子岳と山中山峠を併記することとさせて頂きたい。	-
③	計画流量に対する堤防の整備状況に加え、整備計画の目標値である戦後最大洪水に対する評価も入れるべき。	ご指摘のとおり、戦後最大洪水の評価も入れて再度ご説明させて頂きたい。	1
④	道路でふさがれている霞堤もあるが、機能しているのか。すり付きに問題がないのか。	個々の霞堤の機能をより詳細にご説明させて頂きたい。	2
⑤	利賀ダムの利水計画はどうなっているのか。	再度ご説明させて頂きたい。	3
⑥	外水位の潮位をどのように考えて河口の出発水位を決めているのか。高潮区間は河口部から上流部に何kmか。	具体的に整理した数字をご説明させて頂きたい。	4

# 1-1 洪水を安全に流下させる川の‘器’の確保 ～堤防整備状況～

- 庄川下流部などの一部区間で、堤防の高さや幅が不足。
- 戦後最大洪水に対しても、現況では下流部で堤防高・幅ともに不足する区間が存在。

戦後最大洪水に対する堤防整備状況



計画高水流量 (5,800m<sup>3</sup>/s) に対する堤防整備状況



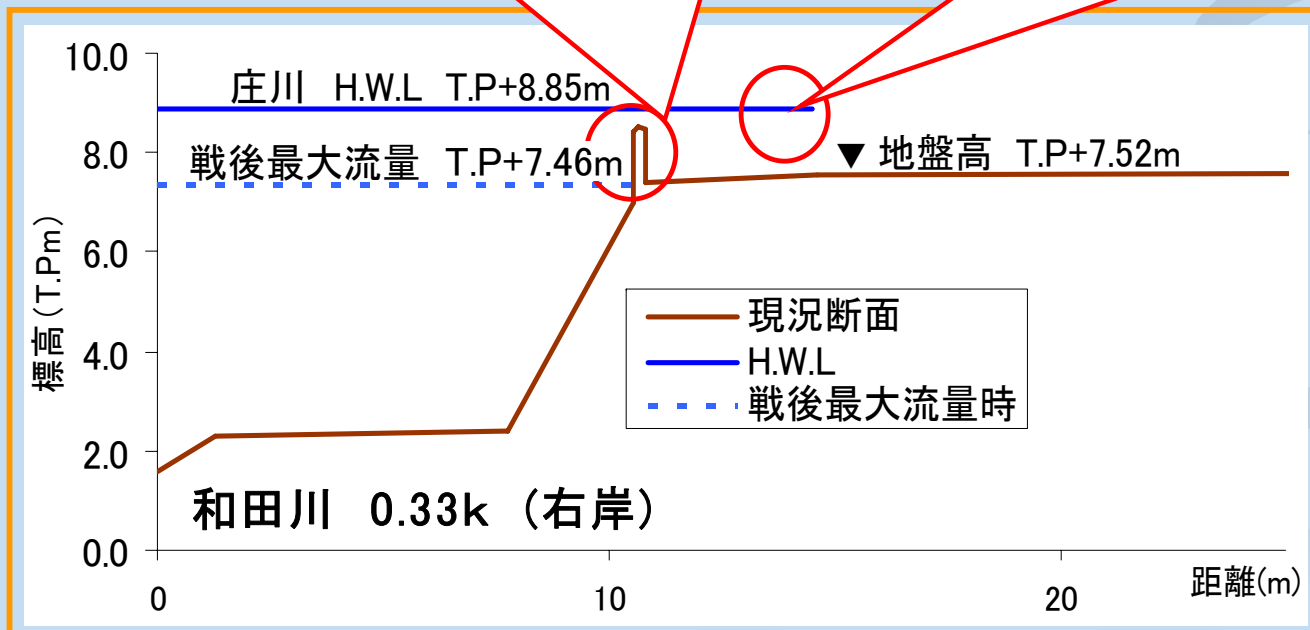
# 1-2 洪水を安全に流下させる川の‘器’の確保 ～庄川水位の影響を受ける和田川～

- 庄川河口から6.2 km付近で合流する右支川和田川は、洪水時に庄川水位の影響を受ける。
- 現在の和田川は、堤防の高さが不足し、一部区間は特殊堤（コンクリート製の堤防）。現況では、戦後最大洪水に対して余裕がない。



戦後最大洪水流下時の水位では、和田川堤防の余裕がない区間が存在。

合流点の庄川の計画高水位 (H.W.L) が和田川堤防高より高くなる区間が存在。

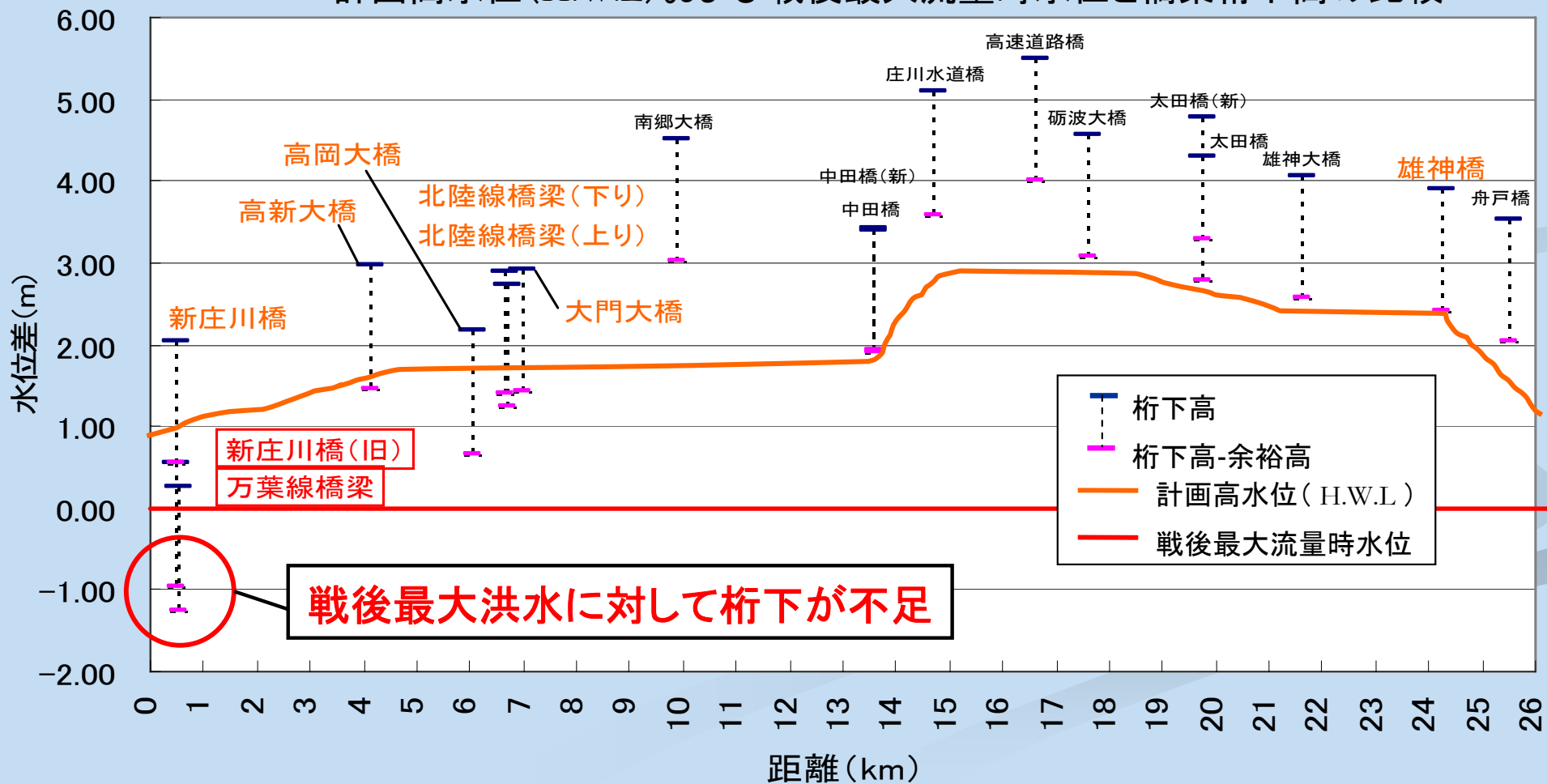


赤線: 戦後最大洪水流下時の水位に対し、堤防高に余裕がない区間

# 1-3 洪水を安全に流下させる川の‘器’の確保 ～治水上のボトルネックとなる下流部河川横断工作物～

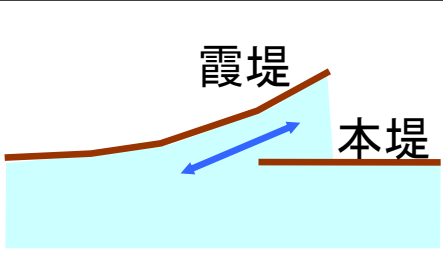
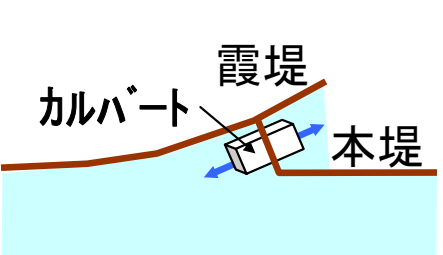
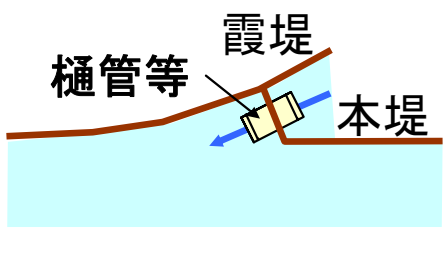
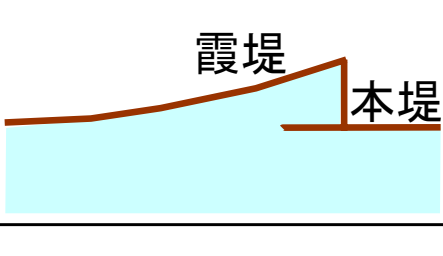
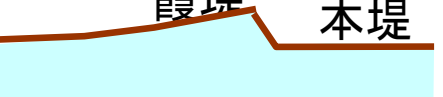
- 現況で戦後最大洪水が流下した際に、下流部の万葉線橋梁と新庄川橋（旧）の桁下高が不足。
- また、計画高水位（H.W.L）に対し、下流部の2橋が浸水、7橋が桁下高が不足。

計画高水位（H.W.L）および戦後最大流量時水位と橋梁桁下高の比較



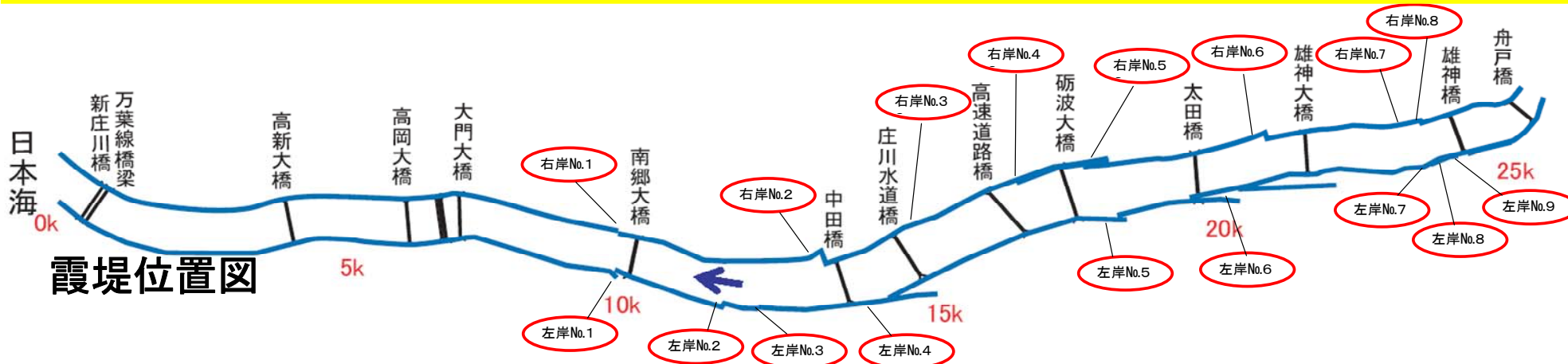
**戦後最大洪水に対して桁下が不足**

## 2 霞堤の機能評価①

霞堤の状況		氾濫水戻し機能の評価	遊水機能の評価		
			効果高い(土地利用)		効果低い
	霞堤は開口している	◎	水田等 ○	宅地等 ▲	地盤高が高く 遊水効果低い △
	霞堤は閉じられているが、カルバートにより開口している	○	水田等 ○	宅地等 ▲	地盤高が高く 遊水効果低い △
	霞堤は閉じられているが、樋管等が設置されている	○	×		
	霞堤の上流部で閉じられている	×	水田等 ○	宅地等 ▲	地盤高が高く 遊水効果低い △
	霞堤の下流部で閉じられている	×	×		

## 2 霞堤の機能評価②

- 氾濫水の戻し機能を有する霞堤は10箇所。
- 戦後最大洪水により遊水機能を発揮する霞堤は12箇所。



左 岸					右 岸				
位 置		氾濫戻し 機能	遊水機能		位 置		氾濫戻し 機能	遊水機能	
			計画高水	戦後最大				計画高水	戦後最大
1	9.3k	○	×	×	1	9.4k	○	×	×
2	11.4k	×	○	○	2	12.9k	○	○	○
3	12.0k	○	▲	○	3	14.8k	◎	○	○
4	14.0k	◎	▲	○	4	16.8k	×	○	○
5	18.4k	×	×	×	5	17.8k	◎	○	○
6	19.6k	×	▲	○	6	20.8k	◎	○	○
7	23.4k	×	○	○	7	22.7k	×	△	△
8	24.0k	×	○	○	8	23.1k	◎	△	△
9	24.1k	◎	○	○					

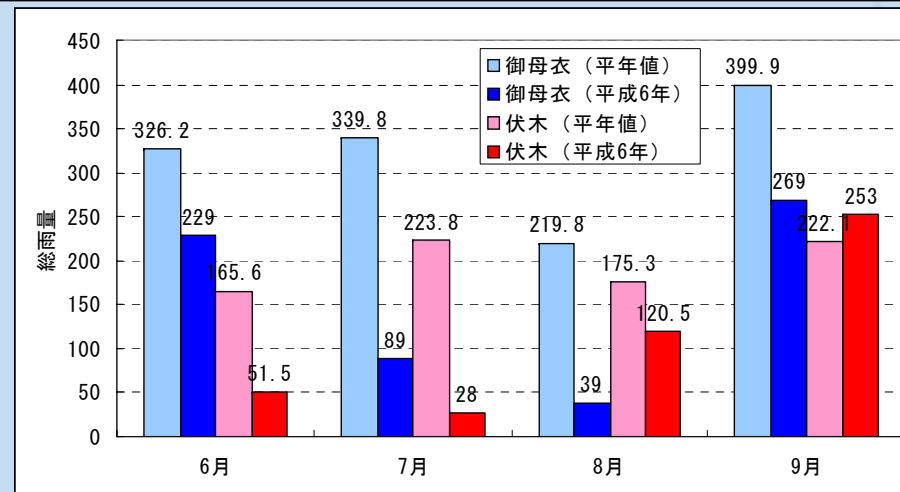
計画高水: 雄神5,800m<sup>3</sup>/s 戦後最大: 雄神4,200m<sup>3</sup>/s 7

## 3-1 庄川の渇水

■庄川では、昭和48年、昭和53年、平成6年等渇水時にしばしば水不足に見舞われているため、流水の正常な機能の維持をはかる必要がある。

渇水に関する記事

渇水に関する記事

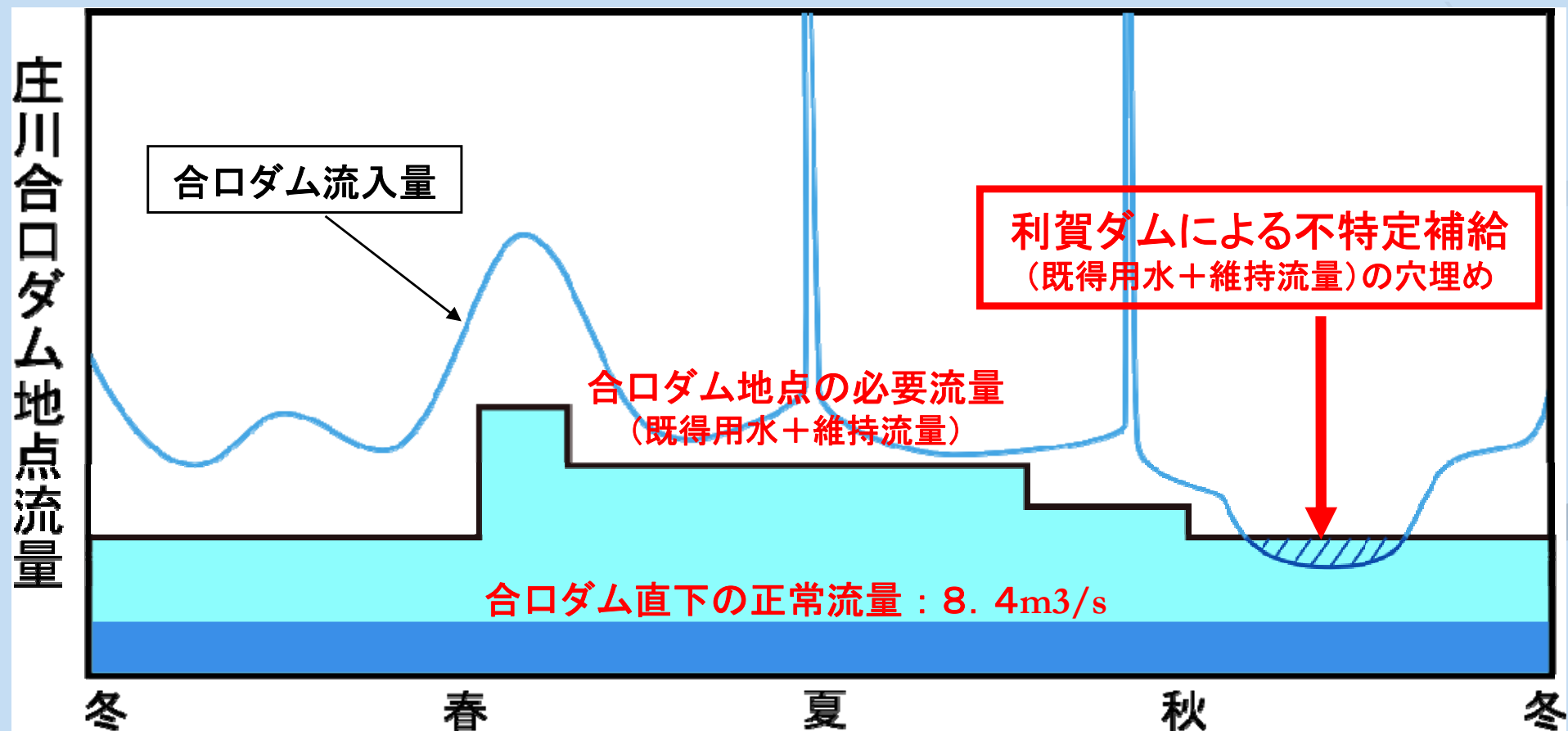


平成6年渇水で貯水率が10%を下回った御母衣ダム（9月6日撮影）

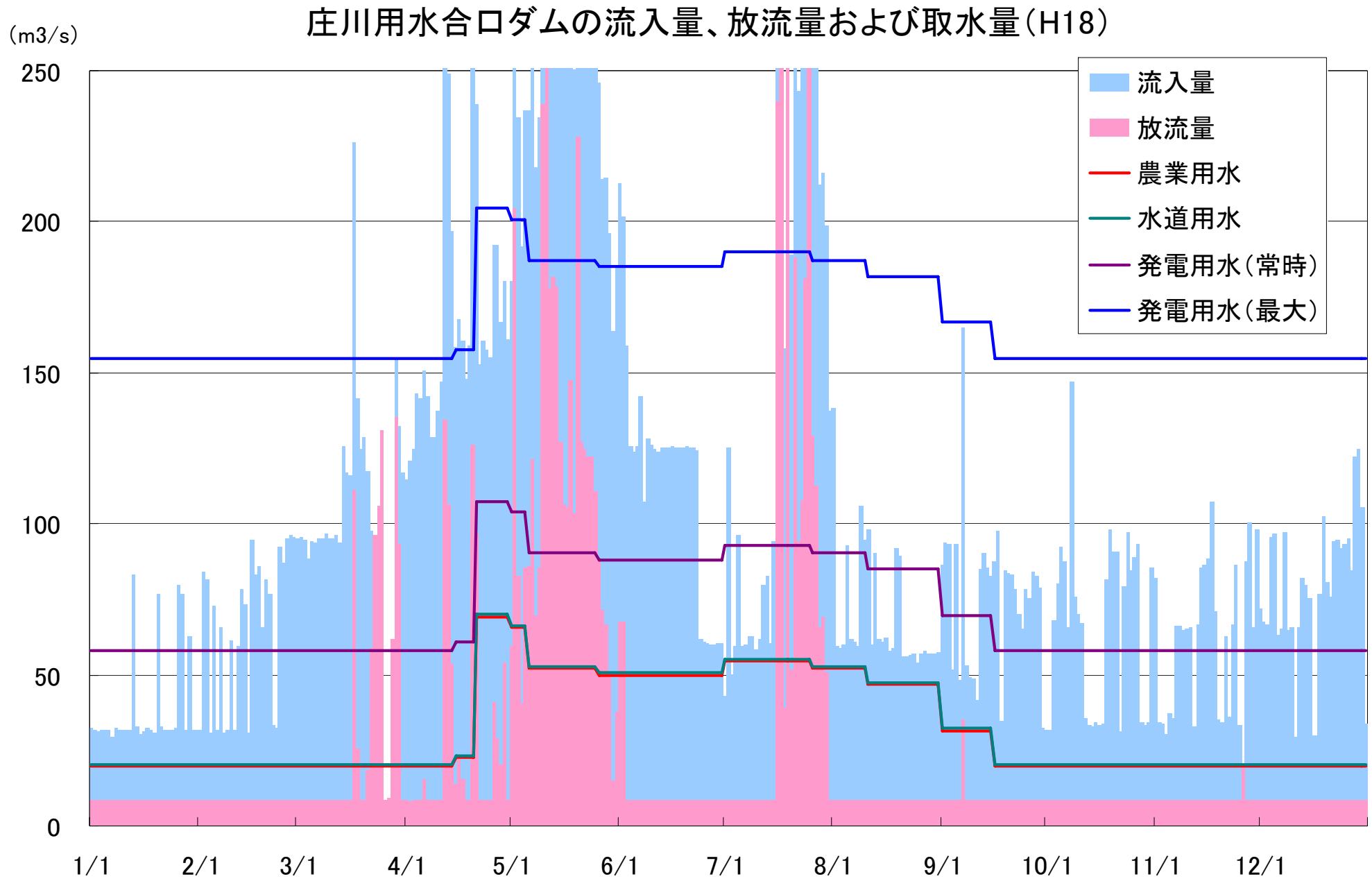


## 3-2 利賀ダムの不特定補給による流水の正常な機能の維持

- 利賀ダムの不特定補給は、ダム地点下流の庄川沿川の既得用水の補給を行うほか、利賀川および庄川の流水が担っている漁業、景観、地下水位の維持、動植物の保護などのために必要な流量を確保。
- 庄川本川では合口ダム地点において、渇水時でも1/10の利水安全度が確保できるよう、農業用水等の既得用水量と下流河川の正常流量である概ね $8.4\text{m}^3/\text{s}$ の不足量を利賀ダムにより補給する計画。



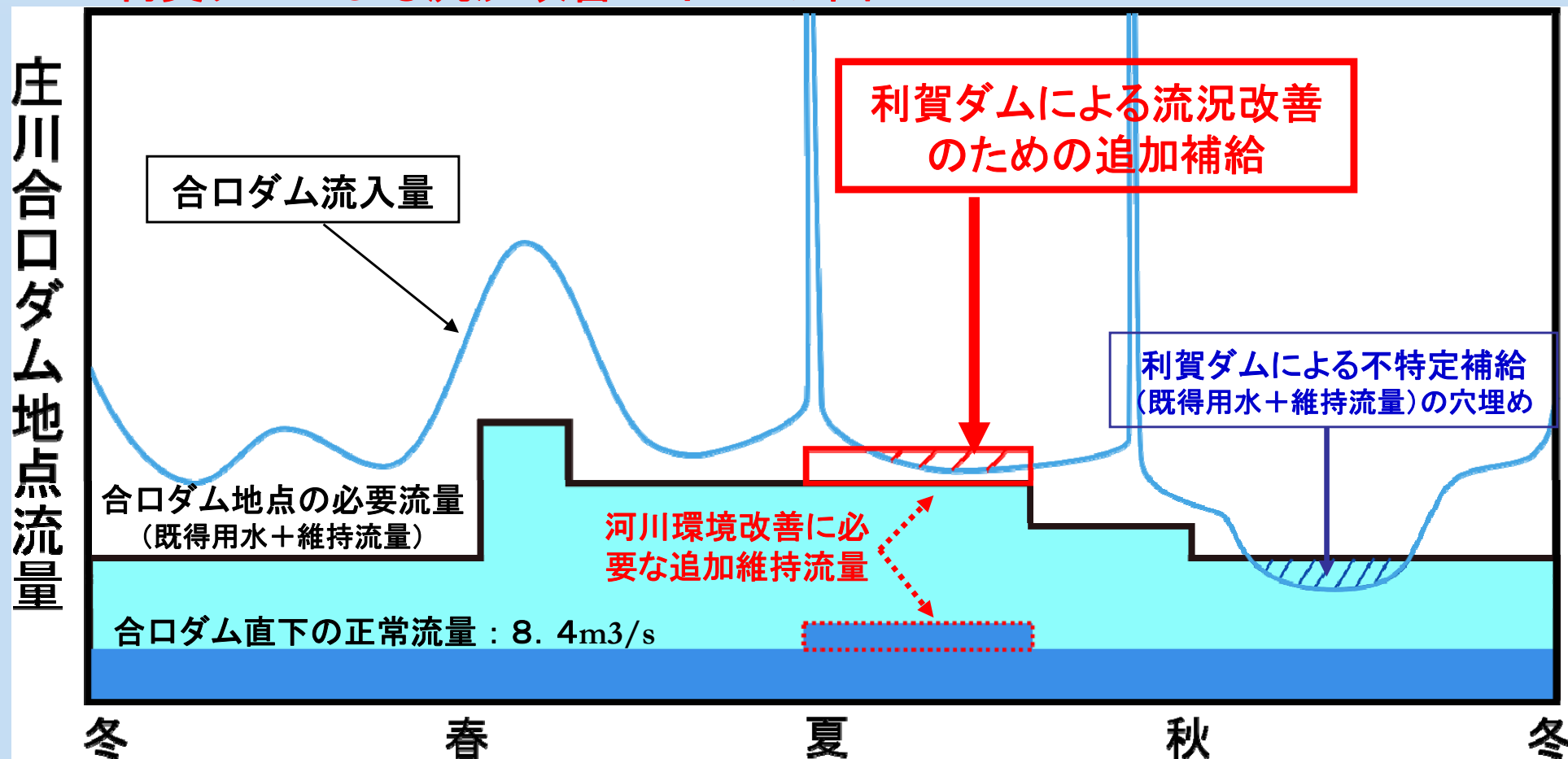
### 3-3 庄川用水合ロダム地点の水利用状況 (H18)



### 3-4 河川の流況改善に向けた利賀ダムへの追加放流

■ 河川環境の改善に対する社会的要請に答えるため、利賀ダムの洪水調節容量や不特定容量の一部を活用した流況改善について、今後、改善効果等の研究を進めながら実施の可能性を検討。

利賀ダムによる流況改善のイメージ図



## 4 河口の出発水位（河道水位の計算に用いる下流端の水位）

- 河口砂州がない場合で最大を示す洪水の痕跡最大水位（T.P+1.60m）を出発水位と設定。
- 過去の最大潮位より洪水痕跡水位が高く、大規模な洪水時ほど高潮の影響は小さくなる。また平水時には、感潮区間は約5.5km。

